

第 5 回 岡崎市都市計画マスタープラン策定委員会 議事要旨

日 時	2020 年 3 月 24 日（火）10:00～11:45		
場 所	岡崎市役所西庁舎 7 階 701 号室		
議事骨子	1. 開会 2. 議題 (1)「第 4 章 計画の実現に向けて」について 3. 報告 (1) 住民説明会における市民からの意見とその対応について 4. 閉会		
配付資料	・ 次第 ・ 資料 1 第 4 章 計画の実現に向けて ・ 参考資料 1 H30 市民意向調査抜粋 ・ 資料 2 住民説明会における市民からの意見とその対応について		
委員 ■出席 □欠席	13 名中 10 名出席		
	所 属	職 名	氏 名
	■名城大学	教授	松本 幸正
	■愛知産業大学大学院	准教授	宇野 勇治
	□東海学園大学	名誉教授	宮崎 幸恵
	■岐阜工業高等専門学校	教授	鶴田 佳子
	■愛知県都市整備局都市基盤部都市計画課	課長	片山 貴視
		代理 課長補佐	伊藤 俊司
	□愛知県西三河建設事務所	企画調整監	大野 伸二
	■岡崎商工会議所	女性部会長	太田 敏子
	■岡崎農業委員会	会長	羽根田 正志
	■NPO 法人岡崎まち育てセンター・りた	事業企画マネージャー	天野 裕
	■NPO 法人 21 世紀を創る会・みかわ	専務理事	斎藤 眞澄
	■株式会社まちづくり岡崎	取締役事業統括本部長	長谷川 伸介
	■市民代表		石井 美紀
	□市民代表		片桐 政勝

1. 開会

事務局

<あいさつ>

只今より第 5 回策定委員会を始めさせていただきます。本日の会議につきましては、岡崎市都市計画マスタープラン策定委員会設置要綱第 5 条第 2 項の規定に基づき、委員の半数以上が出席されていますので会議が成立致しますことをご報告いたします。なお、本会議につきましては、策定委員会設置要綱第 5 条第 3 項の規定に基づき公開することとしておりますが、希望者がございませんでしたので傍聴者なしとさせていただきます。本日の日程につきましては、次第に沿って進めさせていただきたいと存じます。それでは以降の議事進行につきましては松本委員長にお願いいたします。

2. 議題

(1)「第4章 計画の実現に向けて」について

※資料説明及び質疑応答

鶴田委員	今回説明のあった評価指標は現行計画でも使っていたのか。10 年をタイムスパンとしたときに、評価できるほど成果がでるのか不安があるため、ハード的な整備率等を評価指標として設定したほうがよいのではないか。
事務局	本計画の評価指標は、現行計画で設定されている評価指標を踏襲しつつ、目標や都市像が変わったもの、統計調査の関係で指標自体がなくなったものなどを考慮し、新たに評価指標を追加しています。具体的には、都市像 2 の町内会加入率や情報のプラットフォームの整備、低未利用地、都市像 3 の人口密度、居住継続意向、都市像 4 の観光入り込み客数、届出及び景観協議の件数を新たに追加しています。ハード的な整備率等、物的な量で評価できる指標があれば検討します。
松本委員長	事業の進捗を評価するアウトプットだけではなく、アウトカムを評価することも重要であるが、アウトカムの場合、事業を進めたとしても 10 年では結果が出てこない可能性がある。また、外的な要因によって影響を受ける可能性もある。そのため、アウトプット・アウトカム両方から評価してもよいと思う。
石井委員	都市像 5 の評価指標について、他の都市像、目標のものに比べて弱いと感じる。目標 1 に「安全で安心な市街地の形成」とあるが、岡崎市が狭あい道路に対して先進的な補助を行うという話を聞き、安心・安全にも関係することだと思うため、狭あい道路の届出件数を評価指標として設定してもよいのではないか。また、防災講習会参加者数も評価指標としては弱いと感じるため、ソフト面で新たに評価指標を追加してもよいのではないか。
事務局	狭あい道路に関し、市で管理している届出や整備延長もあるため、評価指標として設定できるか検討します。
松本委員長	防災関係の団体についても、評価指標として設定してはどうか。
事務局	自主防災として、各町内会で防災マップや避難路の確認などの取り組みをされているため、それらを実評価指標として設定できるか検討します。
松本委員長	防災公園や避難場所、あるいは避難経路上の倒壊防止対策などは行っていないのか。
事務局	十王公園では、仮設トイレとなるマンホールを設置しており、駅南中央公園では、非常時にはシェルターとなる東屋やかまどとなるベンチなどを設置しています。
松本委員長	避難訓練の回数などは評価指標にならないか。
事務局	町内会単位では積極的に取り組んでいただいているため、一度確認します。
松本委員長	防災というと、水害に対しての防災意識が高いと思う。ポンプの改修が進むと聞いたため、アウトプットかもしれないが、想定浸水面積の減少などを評価指標として設定するとわかりやすいのではないか。今まではなかったのか。
事務局	現行計画では、河川の整備率を実評価指標として設定していましたが、今回のマスタープランにおいて水害に対してよい評価指標がないか検討しているところです。
松本委員長	浸水想定面積を少なくするのは、財源的にも非常に困難だが、少なくともポンプ場の

	改修は効果があると思う。何かそういったものを評価指標に設定し、面積減少につなげることができればよいと思う。
伊藤委員	都市像 2 の評価指標「情報のプラットフォームの整備」について、どのようなものをイメージしているのか。
	都市像 5 の評価指標「火災による焼損床面積」について、そもそも火災が起きなければ、床面積に関係なく 0 m ² なので、都市マスタープランの評価指標としてすぐわないのではないかと。防災計画の中で、避難場所の指定、耐震貯水槽や防災倉庫の整備があるため、都市側からのアプローチで評価指標を設定してはどうか。また、内水対策も整備中であり、そのあたりを評価指標として設定してはどうか。
事務局	情報のプラットフォームの整備については、東岡崎駅で新技術のカメラを活用して、人の流れを解析したりしているところです。そのような新しい取り組みが評価指標にならないかと思い、設定しています。
	焼損床面積については、策定中の全体構想においに関連し、設定しましたが、意見を参考に改めて検討します。
事務局	先ほどの狭あい道路の解消でも初期消火につながる。逆に、ここに狭あい道路の解消を入れれば、焼損床面積はなくてもよいのではないかなど検討します。
松本委員長	都市側からのアプローチで評価指標となるものを検討していただきたい。ハザードマップの市民の認識率などは調べられないか。
事務局	ハザードマップについては、令和 2 年 3 月 1 日に全戸に配布しており、土砂災害のハザードマップもそれ以前に配布済みです。
松本委員長	ハザードマップの配布によって、市民がどのくらい災害リスクを認識しているのかについては調べているのか。
事務局	市としては、災害リスクを広く公開していこうという考えです。水害のほか、災害危険度判定調査も平成 28 年度に同じく全戸に配布しています。ホームページや市民向け GIS で見ることができます。
石井委員	ハザードマップを配布していることと、内容を認識しているかは別問題だと思う。市民がどこまで認識しているのか防災担当課が判定していくことはいい指標になるのではないかと。
松本委員長	市民がどこまで認識できているのかが重要であるため、防災側でどんなことを調査しているのかを確認し、評価指標として設定できそうなものがあれば検討していただきたい。
事務局	意見を参考に検討します。
宇野委員	耐震化率を評価指標として設定してはどうか。
	また、目標数値の定め方について、5 年後、10 年後の目標数値はどのように設定されるのか。単に数値が増えればよいというものではないと思うため、目標設定の背景とプロセスがわかるとよい。
事務局	耐震化率について、数値があればいい指標になると思いますが、現実的に頭打ちであるおそれもあります。

宇野委員 事務局	耐震化率の経緯を見て、目標数値として適切であれば設定していただきたい。 5年後、10年後の目標数値を設定した理由は、目標を定める上でもわかりやすいと判断したためです。
松本委員長 事務局	目標設定の根拠を、本編とは別の部分で記載していただくとよいと思う。 意見を参考に検討します。
宇野委員 事務局	定性的な評価指標は設定されているのか。 定性的なものとしては、都市像3の市民意向調査による岡崎市の住みやすさの割合、市民意向調査による居住継続意向を設定しています。市民意識調査は、これまでも継続的に実施したもので、10年後も使用できると考えています。
松本委員長 事務局	住みやすいか、住み続けたいかは評価の基本であり、総体的に住みよいと感じてもらえ、さらには住み続けたいと思ってもらえる都市づくりが一番大切である。他の分野でも定性的な設問があれば、設定を検討してはどうか。 他の統計やアンケートでも設定できるものがあれば検討します。
松本委員長	市民意識調査は継続的に実施されているため、調査項目の中から設定できるものがあれば検討していただきたい。
石井委員 事務局	都市像2の情報のプラットフォームの整備の評価指標の単位について、他の評価指標では人数や%となっているが、プラットフォームの整備は「有無」となっている。現況は「無」、5年後・10年後は「有」か「無」という表記になるのか。 目標数値等については、今後検討します。
天野委員 事務局	評価指標を掲げ、それらを遂行する主体は誰か。全てを都市計画課が実行するわけではないと思うため、どの主体が責任をもって実施するのかを明確にする必要があると思う。 評価指標は、様々な取り組みが一つの成果となって表れてくるため、責任主体を挙げることは難しいです。
天野委員	例えば町内会加入率を調査している部署では、町内会の維持や負担軽減をどのようにするかなどが調査の主な目的であり、本計画で扱うならば、加入率が増えている所と減っている所では、何の施策が効いていたのか、施策に反映できないか等を検討する際に用いることができると思う。
松本委員長	町内会加入率だけでなく、他の評価指標についても言えることである。町内会加入率は、「市民が主体となり歴史・伝統などを維持する活動」が盛んになった結果として維持が見込まれると記載されており、この活動をサブ資料として採り上げ、進行管理で確認しながら、アウトカムとして町内会加入率を評価する。事業や施策については、担当課が明確になるので、位置づけが明確になる。他の指標設定とその理由の欄でも、「〇〇〇の成果として、△△△を評価指標とします。」と記載されている。この「〇〇〇」の部分が事業にあたる。しかし、そこまで記載している都市マスタープランは見たことがないため、できたら素晴らしいものになると思う。
斎藤委員	都市像2の目標4「自然環境と調和した都市づくり」の指標設定として、水とみどりの森の駅利用者数の増加だけでよいのか疑問に思う。自然環境を保全するには市街化調

	整区域を減らさないようにすることがよいと思うが、都市像 1 にある工業団地造成等との兼ね合いをどのように捉えるか、また、どこまでならよいのか設定が必要であると思う。
事務局	岡崎市の条例では、一定以上の開発を行う場合には緑地率を定めており、緑化を行っています。
斎藤委員	緑地率は曖昧で、良く言えば企業のために考慮しているものである。
松本委員長	緑の基本計画の担当課から情報提供していただきながら、本計画にも反映できるとよい。水とみどりの森の駅利用者数だけでは保全の意味合いが弱いため、その視点の評価指標を検討していただきたい。
事務局	意見を参考に検討します。
松本委員長	一般市民の方々など、役割分担に問題はないか。
天野委員	市民、行政の役割について、各主体にはどのようにアプローチするのか。記載されていない団体や法人もある。
事務局	各主体に役割と取り組みを説明するのではなく、それらを念頭に置いたうえで、様々な活動を市民とともに取り組んでいくことが重要だと考えています。
松本委員長	都市計画だけでなく、全ての計画で市民・事業者・地域に対して役割が求められているのは事実であるため、それらをどのように伝えるかが課題である。
鶴田委員	市民や事業者等にとっては、自分たちの知らないところで役割や取り組みを「やります」と記載されているように感じるため違和感がある。
事務局	意見を参考に検討します。
天野委員	都市像 4 の評価指標「観光入り込み客数」について、旧態依然の評価指標で評価していると、変化している実態を把握できない可能性があるため、観光入り込み客数をメインの評価指標としたうえで、サブとして新たな評価指標も配慮してほしい。
松本委員長	ちなみに観光入り込み客数は何でカウントされているのか。
事務局	レジャー施設・買い物・スポーツなどのカテゴリーで列挙された主要観光施設です。
松本委員長	地域資源の活用の施策、交流促進施策などがサブ事業としてあると思う。検討していただきたい。
事務局	意見を参考に検討します。
松本委員長	公共空間の利活用について、許可件数や申請件数などはあるか。
事務局	実施日数があります。
鶴田委員	都市像 2 の評価指標に空家率を盛り込んでいただきたい。空家は今後の都市構造に影響を与えられる。
	また、安全安心に暮らせる都市に水害の指標も入れてほしい。土砂災害は難しいかもしれないが、火災の指標だけではバランスが悪いように感じる。
松本委員長	空家率、雨水貯留施設、災害危険エリアの居住率を評価指標として設定できそうか。
事務局	担当課とも情報共有した上で検討します。
松本委員長	調査にお金や時間がかかるものはふさわしくない。また、経年的に調査しているデータでないといけない。それらに合致し、ふさわしいものがあれば設定を検討していただ

きたい。

3. 報告

(1) 住民説明会における市民からの意見とその対応について

※資料説明及び質疑応答

→質疑応答なし

4. 閉会

事務局

それでは、本日は長時間ありがとうございました。これにて第5回策定委員会を閉会とさせていただきます。ありがとうございました。

以上